

おほどものさかのうへのいちづめ
大伴坂上郎女、跡見の田庄にして作る歌

二首

一五六〇番

妹が目を 跡見の崎の 秋萩は この月ごろは
散りこすなゆめ

一五六一番

吉隠の 猪養の山に 伏す鹿の 妻呼ぶ声を
聞くがともしさ